

公益財団法人日本宇宙少年団 平成27年度事業計画書

I. 事業の概要

1. 目的及び事業の概要

未来を担う青少年に、宇宙及び科学への探究心と向上心を促すとともに、人々とのつながりを大切にして絆を深め、豊かで平和な国際社会の構築に貢献できる人材を養成し、もって青少年の健全な育成に寄与することを目的として、以下の事業を行う。

- (1) 青少年に対する宇宙及び科学に関する知識の普及啓発の促進
- (2) 宇宙及び科学に関する青少年の連携及び交流の促進
- (3) 宇宙及び科学に関する青少年の人材育成
- (4) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

2. 平成27年度運営方針

1986年に当財団が発足して以来、今年で30周年を迎える節目の年である。

平成27年度は30周年記念事業を全国的に展開するため、日本宇宙少年団地区ブロック協議会と連携協力を一層強化し、日本宇宙少年団の団員や一般の青少年の誰もが宇宙及び科学に親しむ場や機会を提供する。

また、宇宙子どもワークショップ事業「2020年宇宙の旅」は全国の分団が取り組むことができる全体活動プログラムとして平成26年度から始動した。2年目の2015年は石川県金沢市教育委員会と協力し、青少年を対象に本事業を通じて連携及び交流の輪を広げる活動を行う。

さらに、宇宙教育活動に参画する分団等のボランティア指導者が、分団員のみならず青少年の誰をも対象に宇宙教育活動を推進するためには、宇宙教育指導者セミナーの受講が不可欠であることから、宇宙航空研究開発機構(JAXA)宇宙教育センターとの連携を推し進め、指導者の積極的な参加を促す。また、JAXAと協同編集の宇宙教育情報誌「宇宙(そら)のとびら」、JAXAと連携して制作しているインターネット放送「宇宙教育テレビ」もこれまで同様に取り組む。

加えて、例年実施している事業のうち、青少年の人材育成事業「筑波スペースキャンプ」、「YAC宇宙レポートin種子島」に関しては、30周年記念の冠を付けて実施していく。

II. 事業別概要

1. 青少年に対する宇宙及び科学に関する知識の普及啓発の促進

(1) 宇宙教育情報誌「宇宙(そら)のとびら」の編集協力と団員配布

宇宙に関わる様々な分野や研究者の活動紹介、そして宇宙及び科学に関する最新のニュース、新しい科学の発見などを誌面で紹介し、子どもたちの宇宙及び科学に対する関心・好奇心を育むことを目的として「宇宙のとびら」の編集協力を行う。また、JAXA宇宙教育センター(発行)及び(公財)日本宇宙少年団(編集協力・団員配布)の連携により、年4回(6月、9月、12月、3月)発行する。

(2) YAC通信の発行

これから予定するイベントの告知や終了したイベントの報告、分団での活動紹介やこれから設立される分団等の情報を「YAC通信」として年4回(6月、9月、12月、3月)発行する。

(3) 「宇宙教育テレビ」インターネット放送・配信

宇宙及び科学に関する知識の普及啓発を目的に宇宙関連トピックや宇宙教育イベントに合わせ、放送番組の内容をJAXA宇宙教育センターと計画し、その情報をインターネット番組で放送・配信する。なお、本番組では当財団職員が番組司会者となり、宇宙開発の専門家による解説を交えて子どもや一般視聴者に対して分かり易く紹介する。

(時期:2ヵ月に1本程度配信(予定) 19時00分～19時45分(予定))

2. 宇宙及び科学に関する青少年の連携及び交流の促進

(1) 宇宙子どもワークショップ「2020年宇宙の旅」事業

日本宇宙少年団は、同じ目標に向かって成長する全国組織を目指し、その目標を達成させるために全体活動プログラムを提案し、活動の輪を広げ活動を展開する。そして、全国の分団が取り組むことができる全体活動プログラムを行い、全国大会にその成果を持ち寄って交流を行い、ともにレベルアップを図ることを目的とする。

宇宙子どもワークショップ事業「2020年宇宙の旅」では、“もし私が宇宙へ行けたらやってみたいこと”(小学生対象)、“もしも私が宇宙に行って仕事をするなら”(小中高校生対象)を発展させて2020年宇宙の旅を進めていくプログラムを実施する。

(2) 30周年記念事業

本記念事業を通して、地域に根ざしたYAC活動のよさをアピールし、その魅力を全国に発信することで、YAC活動の認知度を高め、YAC団員拡大につなげていくことを目指す。

- ①記念事業
 - 記念式典
 - 日本宇宙少年団(YAC)地区ブロック連携事業
- ②特別事業
 - 設立記念日のつどい(11月21日)
- ③冠事業
 - 人材育成事業
 - a) つくばスペースキャンプ(ホンモノ体験特別プログラム)
 - b) 宇宙レポートin種子島(ホンモノ体験特別プログラム)
 - c) 夢・チャレンジ(自分の目標にチャレンジしよう!)事業
- ④広報・宣伝事業
 - ホームページの整備、30周年記念グッズの作成・配布

3. 宇宙及び科学に関する青少年の人材育成

(1) 種子島スペースキャンプ

子ども達の夏休みを利用し、ロケット打上げ射場のあるJAXA種子島宇宙センターや宇宙科学技術館の見学、ウミガメ学習やマングローブでのカヤック体験等、種子島の自然や歴史に触れる体験学習を行います。また、地元種子島の子ども達にも参加してもらい交流を行います。

時期： 夏休み期間中(4泊5日)

場所： 種子島全域(西之表市、中種子町、南種子町、種子島宇宙センター他)

対象： 小学4年生～中学生の団員及び一般 60名程度

支援： 種子島支援協議会(鹿児島県 西之表市、中種子町、南種子町)

協力： JAXA種子島宇宙センター(予定)

(2) 筑波スペースキャンプ ※30周年記念冠事業

JAXA筑波宇宙センターの施設見学と特別講義、そしてホンモノの宇宙飛行士訓練施設で模擬訓練体験を行い、初めて出会う多様な年齢の仲間と楽しく学びながらコミュニケーション能力等を学んでもらいます。

また、30周年記念特別プログラムとして、つくば市にある(株)エイ・イー・エスの小型衛星地上局の施設見学や実際軌道上の衛星と、通信をする体験を行います。これら宇宙開発の現場でホンモノ体験を知ることを通して、子ども達に宇宙への興味・関心を高め、将来の夢を育む人材育成に寄与することを目的とします。

時期： 夏休み及び春休み期間中 1泊2日あるいは2泊3日(2回実施)

場所： JAXA 筑波宇宙センター、
(株)エイ・イー・エス(筑波事業所研究開発棟)他

対象： 小学4年生～中学生の団員及び一般、YAC指導員

1回 20名～30名程度

協力(予定)： (株)エイ・イー・エス、(株)スペースサービス

(3)YAC宇宙レポートin種子島 ※30周年記念冠事業

子どもたちの夏休み、冬休み、春休みの期間中に種子島宇宙センターよりロケット打上げがある場合は、「YAC宇宙レポートin種子島」としてツアーを計画し、打上げ見学の機会を提供する。

4. その他この法人の目的を達成するために必要な事業

(1)分団等連携団体との協力の促進

この法人の目的を達成するため、全国の分団等の連携団体との協力、新たな分団の結成のための取組を行う。

また、日本宇宙少年団活動を推進するため、全体会合の場として「連携団体長会議」を年1回開催し、活動組織 相互の情報交換等の場を設ける。

今年度は、11月21日(土)、22日(日) 国立オリンピック記念青少年総合センターで開催する。(財団設立記念日の11月21日は30周年記念事業として実施する予定。)

(2)宇宙教育指導者セミナーの開催

宇宙教育活動の指導者育成を目的とするセミナーを、JAXA宇宙教育センターと連携して全国で開催する。

回数： 年6回(平成26年度と同じ)

参加人数： 1箇所あたり20～50名程度

共催： JAXA宇宙教育センター

地域協力： 日本宇宙少年団分団

(3)講師派遣等

一般を対象に宇宙及び科学に関する知識の普及啓発、宇宙教育の促進を目的に、企業等からの依頼に対し、企画立案から実施に至る対応や講演等に当財団より講師派遣を行う。

以上